



# せんしょう苑 望洋荘 便り

第153号  
平成28年  
8月発行

八月、お盆の時期を迎えて

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 滉

八月になると、望洋荘やせんしょう苑で、これまでの一年間に亡くなられた方々が思い出されるのは私ばかりでなく、生活を共にした職員や、ご家族におかれても在りし日の姿が目に見え、追悼の念を起させる時期でもあるでしょう。

平成二十七年第二十九回日本医学学会総会二〇一五関西が京都にて開催されました。そのときに特別講演「日本人の死生観」として梅原猛先生の講演があり、多くの参加者に感銘を与えました。今回、その抄録集を掲載しますので、ご一読いただければと存じます。

## 日本人と死生観

講師 梅原 猛 先生

### 1. 死への不安

私は哲学者として死の問題をずっと考えてきた。現代人は、古代人や中世人よりはるかに救いのない死の不安の前に立たされているように見える。なぜなら、かつてはキリスト教では、人は死後、天国へ行き、仏教では極楽浄土へ行くと信じられていたが、科学はこのよう

な信仰を迷信として否定してしまった。それゆえ、科学を信じる現代人は救いのない死の不安の前に立っている。

このような現代人の状況を哲学に結晶させたのがハイデッガーの『存在と時間』である。私は学生時代、ハイデッガーの著書を耽読した。しかしここでは日本人の死生観について語りたい。

私は、日本人が抱いてきた死生観には科学的根拠があると思っています。

### 2. 縄文時代の死生観

日本人は縄文時代から、人が死ねばあの世へ行くと信じてきた。あの世では、死んだ祖先たちがこの世と同じように家族単位で生活していて、この世にいる子孫の女性が妊娠するとすぐにその情報があの世へもたらされ、あの世の祖先たちが誰をこの世へ帰すかを相談し、あの世の祖先たちのなかから選ばれた一人が胎児となってこの世に還ってくると思われる。あの世での暮らしはこの世とほとんど変わらないが、異なるのは、あの世とこの世では万事あべこべであるということである。

このような信仰は現代にも残っている。死者には着物を左前に着せ、死者に供えるものは必ず壊す。この世で完全なものはあの世では不完全なもの、この世で不完全なものはあの世で完全なものという信仰であろう。縄文時代の土偶はそのような信仰によって作られた。

このような死生観は、死者はいつか必ず子孫となってこの世へ帰ってくるという信仰に基づくものである。「血」の原理による生まれ変わりの思想と言ってよかろう。

(4ページ目へ続く)

# 永崎ユニット 誕生会

# 望洋荘

永崎ユニットにて、八月生まれの入居者の誕生日を合同でお祝い致しました。





# 七夕見学

# せんしょう苑



八月六・七日に、いわき駅前まで七夕見学に行きました。  
七夕飾りも見事でしたが、やっぱり一番のお目当ては出店の  
食事だったようです。



(1ページ目より続く)

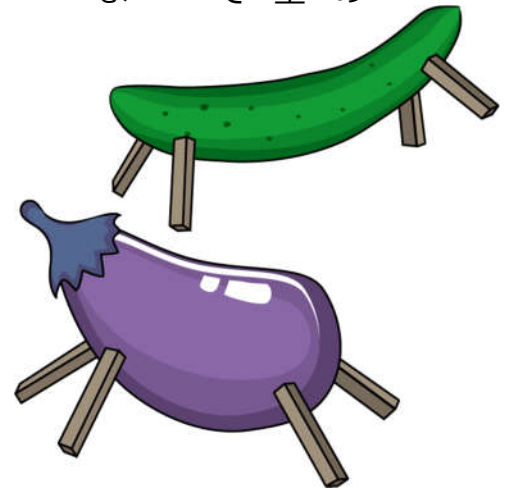
### 3. 浄土教の死生観

このような死生観に浄土教の死生観が加わった。浄土教の死生観は、親鸞が主著『教行信証』で語られるように「二重廻向」である。二重廻向とは、念仏者は阿弥陀様のおかげで死後阿弥陀浄土へ行くばかりか、またそこからこの世に還ってくると思える思想である。これは「法」の原理による生まれ変わりの思想である。

### 4. 私の信仰

このような伝統的の死生観、及び浄土教の死生観は個人単位で見れば非科学的かもしれないが、遺伝子の立場からみれば科学的であると思う。遺伝子というのはアメリカからの永遠の発展と言うべき時間を過去にもち、また今後発展する永遠というべき未来の時間をもつ。人間は現在の存在のなかにこのような二つの永遠を宿しているのである。そしてまた人間の遺伝子は子や孫に引き継がれ、永遠にこの世に残る。

個人としてはたしかに死すべきものであるが、遺伝子からみれば永遠のものである。個人は遺伝子の永遠のマラソン走者のうちの一人にすぎないといえよう。遺伝子の立場に立てば、死は決して救いようのないほど不安なものではない。



※講師 梅原猛先生の略歴：日本の哲学者。ものづくり大学総長(初代)、京都市立芸術大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授。立命館大学文学部教授、京都市立芸術大学学長、国際日本文化研究センター所長(初代)、社団法人日本ペンクラブ会長(第十二代)などを歴任。

## 九月お誕生日の皆さん

### 【望洋荘】

坂本	キヨ 様	九九歳
九月	三十日	勿来ユニット
池田	洋子 様	八四歳
九月	二日	四倉ユニット
佐藤	キイ 様	八一歳
九月	十日	四倉ユニット
鈴木	美知規 様	六七歳
九月	三日	勿来ユニット

### 【せんしょう苑】

村山	和 様	八九歳
九月	二日	みまや南ユニット
遠藤	武雄 様	八八歳
九月	三十日	みまや南ユニット

### 編集後記

『望洋荘・せんしょう苑 便り』  
平成二十八年 八月三十一日発行  
発行所 いわき市平豊間字合磯三十九番地  
社会福祉法人 りんさく福祉会  
介護老人福祉施設 望洋荘

地域密着型介護老人福祉施設 せんしょう苑  
電話 (0246)55-7373  
電話 (0246)38-6331